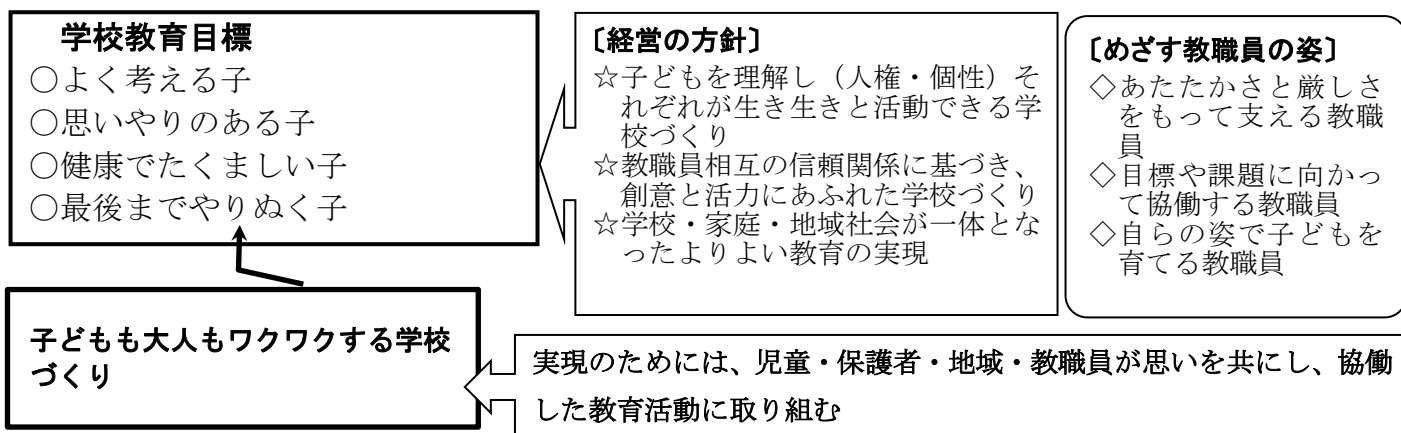


川崎市立登戸小学校いじめ防止基本方針

1. 令和8年度 学校経営計画



中期学校経営目標（5年目標）

① 主体的に考える子（自主）	② 共に支え合う子（協働）	③ 自ら行動する子（自立）
<ul style="list-style-type: none"> ●はてな、なんでだろうと考える子 ●既習を生かし、対話的な学びから課題を解決する子 	<p style="text-align: center;">自分を大切に感じ、相手を受け入れる子（人権教育・SOSの出し方受け方教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●きまりのよさを知り、守れる子 	<ul style="list-style-type: none"> ●仲間とともにやりとげる子 ●自律的な行動がとれる子 ●粘り強く取り組む子

短期学校経営目標（今年度の重点）

【キャリア在り方生き方教育】

○話を聞いたり自分の考えをわかりやすく伝えたりして、学び合う楽しさを実感する。 ○課題を追究したり解決したりする活動を通して、地域の人や生活に関心をもち考え判断する。	○相手の気持ちを大切に、思いやり、誰とでも仲良くする。 ○いじめや暴力は許されないという学校環境の構築	○自分のやるべきことを考え、創意工夫して最後までやり遂げる。（特別活動） ○地域・専門家等による学習に意欲的に取り組み、地域・学校への愛着を深める。	○自分や周りの健康に気を付ける。体力に関心をもち、進んで体を動かす。（健康教育） ○気持ち良いあいさつをし、元気で安全な生活を送れるようにする。
--	--	---	---

具体的な取組

学び	児童支援	特別活動	安全・安心な環境
<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞き、自分の考えをもつ、考えを広げたり深めたりする指導の実施（GIGAシステムの効果的な活用、データに基づく指導改善） ・各教科の見方・考え方を生かした指導 ・資料や地域資源の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる学級・学年づくり（心の居場所） ・人権に配慮した温かい指導・支援・心と命の教育 ・学校のルールの徹底 ・保護者との連携、相談体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な活動の育成 ・集団の一員としての自覚 ・キャリア教育を意識した取組 ・自己有用感を育む活動 ・SDGsを意識した活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、家庭、地域をつなげる防災・防犯・情報教育の実施 ・清掃、消毒、整頓された学習環境の整備 ・計画的な施設整備の実施
連携			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のよさを活かした教育活動 ・保護者・地域と学校の有効な双方向の情報発信 ・コミュニティスクールと協働し学校評価を生かした改善 ・教育活動関係団体や講師との連携による教材開発 			

2 「学校いじめ防止基本方針」策定の目的

いじめはどこの学校や集団にも、どの児童生徒にも起こりうる問題であり、いじめを次に示す定義のように捉えることは、いじめの行為があったかどうかを学校が判断し、法的な責任を負うことをねらいとするものでなく、いじめられている児童生徒の救済を第一にして対応するものです。そのために、学校は一人ひとりの児童生徒との信頼関係を築きながら、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組むために「学校いじめ防止基本方針」を改訂します。

3 いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

4 学校が実施する取組

(1) いじめの未然防止の取組

いじめを未然防止するには、いじめが発生しにくい学校の風土づくりが基本となります。教職員は児童生徒の理解を深め、信頼関係を築くとともに、一人ひとりを大切に授業を実践するように努めます。また、あらゆる教育活動を通じて、他人を思いやる心や正義を重んじる心などの豊かな人間性をはぐくみます。

① 学校体制を確立し、環境を整備します

いじめは絶対に許されないという共通認識に立ち、全教職員で児童生徒を見守っていくためには、いじめの予兆や悩みがある児童生徒を見逃さないしくみづくりや、インターネット上のいじめの防止、問題解決のための組織づくりをするとともに、相談活動がしやすい環境づくりや教職員の計画的な研修の実施など、学校体制を確立します。

② 児童生徒の心を受け止められる感性を磨き、教職員としての人間性を高めます

教職員自身が児童生徒から信頼されるよう自己研鑽し、人間性を高めるよう努力することは教職員としての基本です。児童生徒を一人の人間として尊重し、児童生徒の気持ちを理解し、児童生徒と感動を共有することができるか、自分の心が一人ひとりの児童生徒に向かって開いているか、絶えず自問します。

③ 児童生徒一人ひとりが生きる教育活動と効果的な学習活動を実践します

学校生活の大半を占める授業を「学ぶ楽しさ」が味わえる充実した時間にすることで、児童生徒は前向きに学校生活を送ることができるようになります。また、学校行事や体験活動などを工夫し、充実を図ることで他者と深く関わる経験を重ね、他者への思いやりや対人スキルを身につかせます。

④ 児童生徒の自浄力を育てます

児童生徒自身に「自浄力」を身につけさせることは、未然防止のなかでもっとも重要です。児童生徒の自主的、主体的な活動が、「いじめをやめさせたいと思う児童生徒」を育て、いじめを抑制します。自校に誇りをもたせ「自分たちの学校ではいじめは許されない」という気運を高めていきます。

(2) いじめの早期発見

いじめの発見が遅れると、いじめの内容がエスカレートするばかりでなく、関わっている児童生徒が増加して関係が複雑になり、解決が困難になります。「いじめは見ようとしなければ見えない」と言われます。深刻な事態を招かないためにも児童生徒のわずかな変化を手がかりに、

早期発見に全力を尽くします。

① 日常のきめ細やかな観察をします

普通の授業における児童生徒の顔色や姿勢、学習態度などは、児童生徒の理解を深める大切な情報です。また、授業以外のさまざまな場面での言葉づかいや行動、表情、視線、声をかけたときの反応を観察します。

② 相談体制を整備します

学校における教育相談体制を確立し、児童生徒や保護者に啓発することによって、いじめられている児童生徒や周りの児童生徒が相談しやすい環境をつくります。

③ 定期的なアンケート・チェックシートを実施します

定期的な学校生活アンケートや教職員用のチェックシート等を活用し、児童生徒の状態や指導法を客観的に把握し、いじめの早期発見につなげていきます。

(3) 校内いじめ防止対策会議の設置

校内いじめ防止対策会議（以下、「対策会議」という）は、いじめの防止等の中核となる組織として、校務分掌に位置づけ、「学校基本方針」に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正等を定期的（いじめを認知した場合には状況に応じて）に行い、校内いじめ対策ケース会議の情報の集約と共有をします。

(4) いじめへの対処

いじめの対応を担任一人だけで行くと、解決を遅らせ事態を悪化させる恐れがあります。いじめを認知した、またはその疑いがあった時点で全教職員に周知し、多方面からの確・迅速に対応する必要があります。さらに保護者への対応についても誠意を尽くし、問題解決に向けて信頼関係と協力体制を確立します。

① 校内いじめ対策ケース会議の立ち上げ

いじめの疑いがある情報があったときには、管理職、及び児童生徒指導担当者・支援教育コーディネーター等と当該事案に関わりのある教職員で構成された校内いじめ対策ケース会議（以下「ケース会議」という）を迅速に立ち上げ、個人情報に配慮しながら、いじめに関する情報の収集と情報共有、事実確認の方法や役割分担の確認、対応方針及び支援・指導体制の決定をし、解決に向けた支援・指導を行い、保護者との連携を管理職のリーダーシップのもと組織的に実施します。また、状況に応じて当該事案の対応方針及び支援・指導体制等の見直しを行います。

② いじめられた児童生徒への支援

- もっとも信頼関係ができている教職員が対応し、「最後まで絶対に守る」という意思を伝えます。
- 児童生徒の意向を汲みながら、学校生活の具体的なプラン(登下校の方法など)を立てます。
- 心のケアや登下校・休み時間の見守りなど、安全で安心できる環境づくりに努めます。

③ いじめた児童生徒への指導

- よく事情を聞き、いかなる事情があっても、いじめることはいけないことだと教え、同じことを繰り返さないようにします。
- いじめた行為そのものは、よくないことと理解させつつ、相手に対して心身の苦痛を与えるような結果になってしまった理由を考えさせ、どこがいけなかったのか、どうしたらよかったのかを考えさせます。
- いじめに至った要因や背景を踏まえ、立ち直りに向けた相談活動や指導を継続的に行います。

④ 周囲の児童生徒への指導

- はやしたてたり、見て見ぬふりをしたりするのは、いじているのと同じだということを理解させます。

●いじめを防ぐことができなかつたことを見つめなおさせ、再発を防ぐための具体的な手立てを指導します。

●必要に応じて学級、学年さらに学校全体に広げて再発防止へ向けた指導を行います。

⑤ 保護者への対応

●いじめに関係した児童生徒の保護者には迅速に事実を伝え、ケース会議で決定した指導方針と対応策を示すとともに、いじめ解消に向けて協力を要請します。

●解消するまで学校が主体性を発揮し、解消後も定期的に児童生徒の学校や家庭での様子を保護者と情報交換し、経過観察を行います。

5 重大事態への対処

(1) 重大事態の意味

次に掲げる場合を重大事態とといいます。

① いじめにより児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。

② いじめにより児童生徒が相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

「いじめにより」とは、①②に規定する児童生徒の状況に至る要因が当該児童生徒に対して行われるいじめにあることを意味します。

①の「生命、心身又は財産に重大な被害」については、いじめを受ける児童生徒の状況に着目して判断します。例えば、

- 児童生徒が自殺を企図した場合
 - 身体に重大な傷害を負った場合
 - 金品等に重大な被害を被った場合
 - 精神性の疾患を発症した場合
- などのケースが想定されます。

②の「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とします。

ただし、児童生徒が一定期間、連続して欠席しているような場合には、上記目安にかかわらず、教育委員会又は学校の判断により、迅速に調査に着手します。

また、児童生徒や保護者からいじめにより重大に被害が生じたという申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして報告・調査等に当たります。

(2) 事実関係を明確にするための調査の実施

学校は、重大事態に至る要因となつたいじめ行為が、いつ（いつ頃から）、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情や児童生徒の人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員がどのように対応したかなどの事実関係を、可能な限り網羅的に明確にします。

なおこの調査は、民事・刑事上の責任追及やその他の争訟等への対応を直接の目的とするものでないことは言うまでもなく、学校が事実に向き合うことで、当該事態への対処や同種の事態の発生防止を図るものです。

6 令和8年度 いじめ防止対策組織・役割分担

【校内いじめ防止対策会議の構成】（校務分掌に位置付ける）

校長、教頭、教務主任、総括教諭
学年主任
支援教育コーディネーター
教育相談担当、養護教諭
スクールカウンセラー（要請による派遣）、
スクールソーシャルワーカー（要請による派遣）

【いじめ防止対策の企画・運営】

- ・学校運営（学校評価）におけるいじめ防止に関する目標の設定・検証・・・（校長）
- ・いじめ防止対策年間指導計画の作成・・・・・・・・・・・・・・（ CO ）
- ・いじめ防止指導研修会の企画、運営・・・・・・・・・・・・・・（ CO ）
- ・いじめ問題に関する資料の管理・・・・・・・・・・・・・・（ CO ）
- ・道徳教育との連携・・・・・・・・・・・・・・（ CO ）
- ・学校いじめ防止基本方針の見直し・・・・・・・・・・・・・・（ CO ）

【教育相談】

- ・教育相談のねらい・年間計画の作成・・・・・・・・・・・・・・（CO）
- 1年・・・・・・・・・・・・・・（ ） 2年・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- 3年・・・・・・・・・・・・・・（ ） 4年・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- 5年・・・・・・・・・・・・・・（ ） 6年・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・相談室窓口、相談室の管理、運営・・・・・・・・・・・・・・（ CO ）

【児童・保護者・地域との連携】

- ・児童会との連携・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・PTA校外委員会との連携・・・・・・・・・・・・・・（ 教務主任 ）
- ・地域教育会議との連携・・・・・・・・・・・・・・（ 教務主任 ）

【関係機関との連携】

- ・警察との連携・・・・・・・・・・・・・・（ 校長・教頭・CO）
- ・児童相談所との連携・・・・・・・・・・・・・・（ 校長・教頭・CO）
- ・中学校との連携・・・（6年主任） ・幼稚園・保育園との連携（1年主任）

7 令和8年度 いじめ防止等対策年間計画の例

月	活 動 内 容 (校内いじめ防止対策会議・児童生徒指導部会・職員会議等)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針・重点目標の確認 ・構成員の確認・役割分担 ・年間指導計画確認 ・第1回学校生活アンケート実施に向けた内容検討・実施 ・学校生活アンケート集約について ・学校生活アンケート結果を受けての対応について ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応方法等についての研修 ・かわさき共生*共育プログラムの取組について
5	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・携帯・スマートフォン教室実施 ・いじめ防止標語の募集 (生徒会本部・生活委員会)・ポスター制作
6	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 <p>【児童生徒指導点検強化月間】の取組 (具体的な内容→ 代表委員会によるいじめ防止スルーがんやあいさつ運動の取組)</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・教育相談週間の実施 ・夏休み期間中の対応確認
8	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめ防止対策に関する研修会
9	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第2回学校生活アンケート実施に向けた内容検討 ・学校生活アンケート集計について ・前期の反省とまとめと後期の具体的な取組の確認
10	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・学校生活アンケート結果を受けての対応について
11	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・教育相談週間の実施
12	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・小中連携事業職員研修 ・第3回学校生活アンケート実施に向けた内容検討
1	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・学校生活アンケート結果を受けての対応について
2	<p>【学校体制振り返り月間】の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・今年度の反省→学校評価への反映
3	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・来年度に向けての基本方針の見直し

◎本校のいじめ防止に向けた取組

児童・生徒の自主的な取組

- ・人権出前授業の計画
- ・校内職員研修（人権教育）
- ・授業参観等を利用した子供とともに学ぶ人権教育の実施（山田雅太氏講師）

[自主的な企画・運営]

- ・生活目標に沿った学級活動や学級における指導（学校のきまり、あいさつ、言葉づかいなど）
- ・「子どもの権利」についての学習
- ・代表委員会によるいじめ防止に向けての企画・実行
- ・自主的なあいさつ運動や異学年交流集会の企画・実行
- ・各行事における児童主体の活動の実施（運動会）

[交流活動の活性化]

- ・支援級との交流学习
- ・縦割り活動（1・2年生の生活科や1・6年生における交流）
- ・生活科や総合的な学習、社会科の時間等における交流（2年生の町探検、4年生の福祉体験学習など）
- ・国際理解教育（各学年での外国語活動）
- ・幼保小連携教育（地域の保育園、幼稚園との交流）

[啓発活動]

- ・代表委員会を中心とした取組や、児童を中心とした様々な取組。
- ・学校ホームページを利用し、学校教育活動の広報
- ・外部講師来校時など、積極的な授業公開

保護者の取組（PTA 活動）

- ・校外委員の活動

地域住民の取組

- ・地域での見守り活動
- ・地域教育会議（地域の方とのふれあい）
- ・学校行事への地域の方々の参加
- ・地域ぐるみの学校安全体制推進委員会
（下校時のパトロール、防犯教室、パトロールに携わってくださっている地域の方に向けての感謝の気持ちを伝える取組）